

# 農薬及び農業関連事業(海外)



世界の人口増加を背景に、食料生産を支える農薬市場は拡大傾向。  
**アクシーブ®の維持拡大を図るとともに、他の自社剤の販売も広げていきます。**

当社グループでは、国内のみならず世界各国で安全・安心な自社開発有効成分を含む製品の普及を進め、世界規模での農作物の生産性向上、持続可能な農業に貢献できるよう取り組んでいます。

世界的な人口増加に伴う食料需要の増加、環境負荷の低い農業生産、農薬を含む農業資材の使用抑制等、農業を取り巻く環境変化に対して当社の強みである研究開発力、販売体制等を活用し、世界の作物安定生産、食料安定供給に貢献します。

代表取締役 専務執行役員 海外営業本部長 **今井 克樹**

## 機会

- 世界人口の増加に伴う食料需要の増加
- 既存剤に抵抗性を示す雑草、病害虫の発現・拡大
- 環境負荷の小さい製品の需要増

## 脅威

- 自社製品に抵抗性を示す雑草、病害虫の発現・拡大
- 安価な競合剤、ジェネリック製品の出現
- 原材料コスト上昇

## 強み

- 有効成分(原体)および製品の自社開発・製造
- 現地提携先との強固な協力体制

## 弱み

- 現地提携先による販売が主であり独自販売網がない
- 自社開発品はジェネリック製品に比べ販売価格が高い
- 製品ポートフォリオに偏りがある
- アクシーブ®への売上依存度が高い

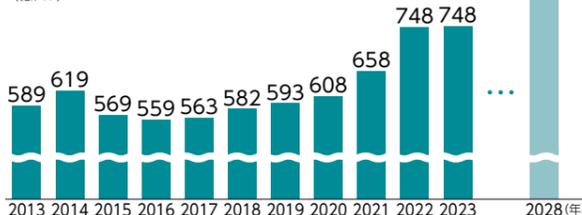
## 事業環境

世界の農薬市場は南米・アジアを中心として世界人口の増加や食生活の変化による穀物需要の増加を背景に成長基調が続いており、2028年には813億ドルになると予測されています(Agbiolnvestor社)。

一方で、農薬市場はここ数年激しく変動しています。2022年は緊迫する世界情勢を受け、農薬価格が高騰し、農業現場では農業資材のパニック買いが起きました。2023年は農薬製品が潤沢に供給され、農薬価格が下落、膨らんだ流通在庫の適正化に動きました。在庫適正化から圧縮の動きは2024年も継続し、当社製

品の販売にも影響が出ました。穀物価格の下落傾向、農薬価格の低下が継続することが見込まれ、2025年の当社製品の販売にも影響が見込まれます。

世界の農薬市場の推移  
(億ドル)



## 事業戦略

### 自社開発剤の現状と戦略

#### ● アクシーブ®

アクシーブ®は2011年に上市したダイズ、トウモロコシ、コムギ、サトウキビなどを対象とする畑作用除草剤です。農作物の生産現場において既存除草剤抵抗性雑草の防除になくならない製品と位置付けられ、販売は順調に推移し、当社グループの業績をけん引してきました。しかし、

ここ数年の農薬市場の激しい変動の流れを受けた在庫引き締め、オーストラリア、インドでのジェネリック品の市場参入の影響を受け、2024年度の売上高は711億円と前年比減となりました。一方で、抵抗性雑草の問題は拡大しており、米国、ブラジル、アルゼンチン、オーストラリア等の主要市場を中心に新規混合剤の開発の促進、適用作物の拡大、適切な販売促進活動支援を行い、継続的な販売

拡大・維持を図ります。現在、アクシーブ®は、世界25カ国(2025年3月現在)で農薬登録され、新たに10カ国以上で開発を進めており、継続して市場拡大を図ります。ジェネリック品に対しては、当社保有の特許権の侵害が認められた場合には、断固たる対応を行うという方針のもと、当社知的財産権の保護のため法対応を実施しています。オーストラリアではジェネリック品販売会社を対象に5件提訴し、内1件勝訴的和解を勝ち取りました。中国では中間体メーカーを対象に、行政審判を求めて1件提訴して勝訴的和解を勝ち取り、加えてジェネリックメーカーを対象に5件提訴し係争中です。

#### ● エフィーダ®

国内で水稲用除草剤用途を中心に販売しているエフィーダ®は、2020年から韓国で水稲用除草剤として販売を開始し、6販社から14製品(混合剤)が上市されており、防除が難しい除草剤抵抗性雑草や難防除広葉雑草等への高い効果とイネへの極めて高い安全性から販売を伸ばしています。今後も継続しての新製品(混合剤)の市場投入を予定しており、販売拡大を図ります。

韓国以外でも積極的に開発を進めており、欧州ではムギなどの畑作用除草剤としての展開を目指し開発を進め、2021年に登録申請を実施しており、商業化に向けた準備を進めています。また、米国ではValent社と業務提携し水稲用除草剤としての開発を進めています。その他、アジア、米州でも水稲用、畑作用除草剤としての開発を進めており、エフィーダ®の世界的な販売拡大に取り組んでいます。

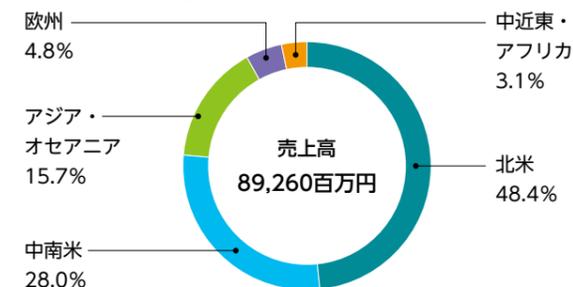
#### ● デイザルタ®

国内で2020年に販売を開始した水稲用殺菌剤デイザルタ®は、2023年から韓国で販売を開始しました。韓国においても国内同様に水稲箱処理剤(混合剤)として開発され、現在、3販社から3製品が販売されています。いもち病への高い効果とイネへの安全性が評価され確実に販売を伸ばしています。今後も現地販売会社と協力した販売促進、普及活動による既存剤の販売拡大、新規混合剤開発を行い販売最大化を図ります。また、アジアにて水稲分野を中心とした開発を行い販売国拡大を図ります。加えて、デイザルタ®のSAR(全身獲得抵抗性誘導)剤としての特徴を活かし、水稲分野以外への適用も検討しており、早期開発判断、事業化を目指します。

#### ● プロヘキサジオンカルシウム塩

プロヘキサジオンカルシウム塩は、1994年に販売を開始した植物成長調整剤です。本剤は、その優れた性能と安全性から50カ国以上で登録、販売されており、販売開始から30年以上たった現在でも当社の海外向け主力製品となっています。本剤は、コムギ、リンゴを中心に販売されてきましたが、近年、殺菌剤との混合剤がヒマワリ、ナタネ向けに開発され、今後も販売の維持拡大を計画しています。また、植物成長調整剤として、新たな作物への適用も検討しており、早期の事業化を目指します。

### 地域別の売上高比率



#### ● 販売地域の拡大

2021年2月にシンガポールの農薬製造販売会社 Asiatic Agricultural Industries(AAI社)を子会社化し、同社が持つアジア・アフリカ地域での販売ネットワークを活用した市場情報・ニーズの把握に基づき、アクシーブ®を含む当社製品の評価、開発を積極的に進めています。評価から農薬登録、販売開始までには時間を要することから、販売開始には至っていませんが、2025年中に最初の製品の農薬登録が見込まれる状況となっています。アジア・アフリカ地域で当社およびAAI社が持つ販売ネットワークを強化・補完し、それを活用することで、当社グループの販売力の強化、販売国の拡大、売上の拡大を図ります。



海外での農業散布の様子